上毛新聞
2019年（令和元年）11月29日（金曜日）８面掲載
（上毛新聞社使用許諾済み）

群馬イノベーションアワード（ＧＩＡ）2019のファイナルステージが12月７日、前橋市のヤマダグリーンドーム前橋で開催される。ファイナリスト16組を紹介する。

16組がプレゼン競演

ＧＩＡファイナルステージ

12月7日　12時開場　14時開幕　ヤマダグリーンドーム前橋　入場無料

ビジネスプラン部門　高校生の部

食品ロス削減アプリ「Food Map」
前橋商業高校３年・３年　中沢千鶴、布施龍賢

中高生留学支援アプリの開発
前橋女子高校２年　河野華子

～地元企業と高校生をつなぐお弁当～　弁チャー
市立太田高校３年・３年　大野愛美、小泉佑弥

圧死から子豚を救え！ferkel saven
県立前橋高校２年　中沢　陽

ビジネスプラン部門　大学生・専門学校生の部

ＲＥ:Arize:精神疾患の人のための社会復帰プログラム
中央情報経理専門学校１年　伊藤チア

患者さんの初診に役立つサービス［Medizin］
群馬大学３年　松永晨人

ｅスポーツのための新たなスポーツジム「eGG」
共愛学園前橋国際大学３年　ラメザニ　アイディーン

ビジネスプラン部門

No konjac　No life, 世界に広がれ！蒟蒻革命！
株式会社Mighty Konjac こんにゃく工房　迦しょう　遠藤春奈

リンパ浮腫の滲出液ケア専用シート＆ホルダー「とりこっとん」
nunology　山田俊介

Fu-Fu
丸山法律事務所　丸山　彬

スタートアップ部門

親子に優しく寄り添う小児用ウィッグ
Dream Assort　新井　舞

オフィス・パンスク
株式会社パンフォーユー　矢野健太

Casper（キャスパー）で人の動きを可視化
医療現場や介護現場をサポートするＡＩカメラ
株式会社ファントム　石井伸和

イノベーション部門

破壊的イノベーションによる「温泉ゲストハウス」の創造
株式会社エスアールケイ　関　良則

親はイキイキ、社員はバリバリ
介護離職予防『ロコモバトン』
アルケア株式会社　原田悠平

治療から予防の時代へ
ヘルスケアチームとして日本一を目指すジム
じぶんカンパニー株式会社　池田道成

群馬イノベーションアワード

協賛社トップ座談会⑥（最終回）

わが社の成長戦略

相模屋食料の鳥越淳司社長ら６人が「わが社の成長戦略」をテーマに、新規事業への参入や事業承継などについて意見を交わした。

出席者

相模屋食料	鳥越淳司社長
共愛学園前橋国際大	大森昭生学長
三光ファーム	広瀬光昭社長
上越印刷工業	関　智宏社長
田子会計事務所	田子宏美代表
西建	平形敦史社長

活発に意見を交わした（前列左から）鳥越さん、田子さん（後列左から）平形さん、関さん、広瀬さん、大森さん＝上毛新聞社

新事業を積極推進

経営強化

経営資源転換に軸　関

せき・のりひろ　1960年、東京都生まれ。2018年1月から群馬県在住。約33年の東京の大手広告会社勤務を経て、昨年6月から現職。目下、第二の創業を旗印に、グループ企業を挙げて事業構造改革を推進中

若手経営者を支援　田子

たご・ひろみ　1980年、前橋市生まれ。名古屋で大手の税理士法人に勤務後、帰郷して田子会計事務所に入社。2019年6月より代表。女性経営者・創業者の支援、事業承継、コンサルティングなどに力を入れている

現場と顧客が第一　平形

ひらかた・あつし　1975年、渋川市生まれ。大手物流会社、建築設計事務所を経て2003年入社。17年より現職。前橋商業高校硬式野球部出身。18年に前橋商工会議所青年部緑水会代表幹事となり、現在、県商工会議所青年部連合会長

業界の再生に尽力　鳥越

とりごえ・じゅんじ　1973年、京都市生まれ。96年、雪印乳業に入社。相模屋食料の江原寛一会長の娘との結婚を機に退職。2002年に同社に入社。07年から現職。「ザクとうふ」などのヒット商品を手掛ける

鳥越　豆腐、油揚げ、厚揚げを製造している。市場は縮小し続け、全国の製造所は30年前に比べ10分の1以下に減っている。「伝統食品だから仕方ない」と言われるが、チャンスと思いやってきて業界トップとなった。みんながやらないところで勝負すれば、一人勝ちできる。

関　東京で仕事をしていたが、第二の人生は地方で中小企業を応援したかった。縁あって前橋の印刷会社にお世話になった。印刷業界はリーマンショック前に8兆9千億円あった市場が今、5兆円になってしまった。大変な事業承継を引き受けてしまったという思いと同時にやりがいを感じた。一方、個人のインターネット利用率は約80%、スマートフォン保有率も約65%で、インターネット広告費は増え続けている。印刷の経営資源を転換するのが私の使命だ。

田子　名古屋の税理士法人で勤務していたがUターンし、父の税理士事務所を事業承継した。高校生の時は何もない群馬に魅力を感じなかったが、久々に戻ってみると、群馬の人の温かさに気付いた。業務の中心となる税理士業務に加え、創業支援、女性経営者の支援、事業承継、農業経営コンサルタントなどに取り組んでいる。

広瀬　小さな会社が集まりホールディングスを形成している。不動産業からスタートしているが、分譲地の販売が悪化し、太陽光発電事業に取り組んだ。土地の仕入れ時に、農家の後継者不足や耕作放棄地の課題に直面し、3年前から農業に参入。高崎市と甘楽町で50㌃の土地を管理するなど、ようやく先が見えてきた。

大学の使命　再確認　大森

おおもり・あきお　1968年、仙台市生まれ。大学院博士後期課程在学中、96年に共愛学園に入職。前橋国際大副学長などを経て2016年から現職。全国の学長が注目する学長ランキング3位（大学ランキング2019）

大森　学校は非営利組織だから指標は受験者数や就職率。今、受験生が増え続け、しかも入学者の約9割が群馬県出身。就職も順調で、7、8割が地元に就職させてもらっている。全国の大学の学長が評価する大学ランキングで5位となるなど教育界でも評価されている。

平形　昨年、創立70周年を迎えた。もともとは木製建具製造業だったが、木製家具の製造販売、内装店舗、外構土木工事と幅を広げてきた。現場第一主義を掲げ、職人を大切にする社風を大事にしている。設計、営業、製造、施工管理、現場施工を自社の社員で一貫して施工できる体制が強み。多くの従業員を抱えるのはリスクもあるが、お客さまの声をダイレクトに伝達でき、急な要望や設計変更にも対応できるようになっている。

関　プリントメディアに加え、インターネットでの接点も開発し、お客さんを増やしていくことに軸足を移している。内部資源だけでは足りないので、ウェブデザインに強い会社をM&Aし、新たにデジタル広告専門会社を立ち上げた。印刷の人材育成。若い人に農業の魅力、やりがいをいかにして伝え、入ってきてもらえるか。規模拡大も重要。天気に左右されず安定して収益を上げられる施設栽培を行っているが、1施設に約6人の雇用を生み出せる。施設設置1年目から黒字化できるシステムを構築したい。6月にはM&Aで食品の仲卸業を買収、販売先の確保も進めている。

田子　税理士業界も高齢化が進み、低価格競争にもさらされている。数社が倒産していく中、1社でも救いたいと、SOSがあれば必ず行き、再建している。救済した会社は7社に上る。その会社の一番いいところを伸ばし、良かった黄金時代を取り戻すようにしている。黄金時代に関係ないものは捨ててしまえと。原点であるおいしいものを安定して作ることを目標にすればモチベーションも上がる。経営者に「何を残すか」と聞いたときに「社員を残したい」という会社は生き残る。

農業の魅力伝える　広瀬

ひろせ・みつあき　1977年、石川県生まれ。高崎市育ち。不動産業を経て2016年、耕作放棄地の解消と地産地消の推進を目指し農業に参入。農地を引き受け、コメや野菜を生産する約50㌃を管理、県内外へ販路を拡大している

一本足から脱する第二の創業を始めたばかりだ。

大森　20年ほど前、受験生が定員割れする時期があった。問題点の一つは全国から学生を呼び込もうと、地域のことを忘れていたこと。もう一つは学生の力を伸ばす取り組みが不十分だったこと。現在は地域の学生を預かり、地域に戻すことを使命に「群馬の人材を育てる」ことに注力している。教育改革も進め、アクティブラーニングを推進したことにより、卒業生の9割が「力が付いた」と感じるようになった。自分たちの使命をしっかり再認識した結果だ。

広瀬　第1次産業はやり方によって未来があると思っているが、課題は字という内部的なものはクラウド会計やＡＩ（人工知能）を活用し効率化を進める。一方で数字の奥にあるものや先にあるものを実現するためには、お客さまとのコミュニケーションが重要になる。県内にはビジネスで活躍する女性が少なく、女性の経営支援をサポートしたい。他に事業承継、若手をターゲットに事業展開していきたい。

平形　ここ数年はエンドユーザーを対象とし、店舗内装、住宅リフォームをデザインから施工までを一貫して請け負うウッドフェイス事業部、住宅の外構工事をデザインから施工まで請け負う庭夢（ほうし）師部門の営業を強化し、幅広く多くのお客さまに製品や工事を提供できるよう努めている。

鳥越　業界の再生に全国を飛び回っている。千